

コロナを踏まえた最近の状況等について（東急電鉄）



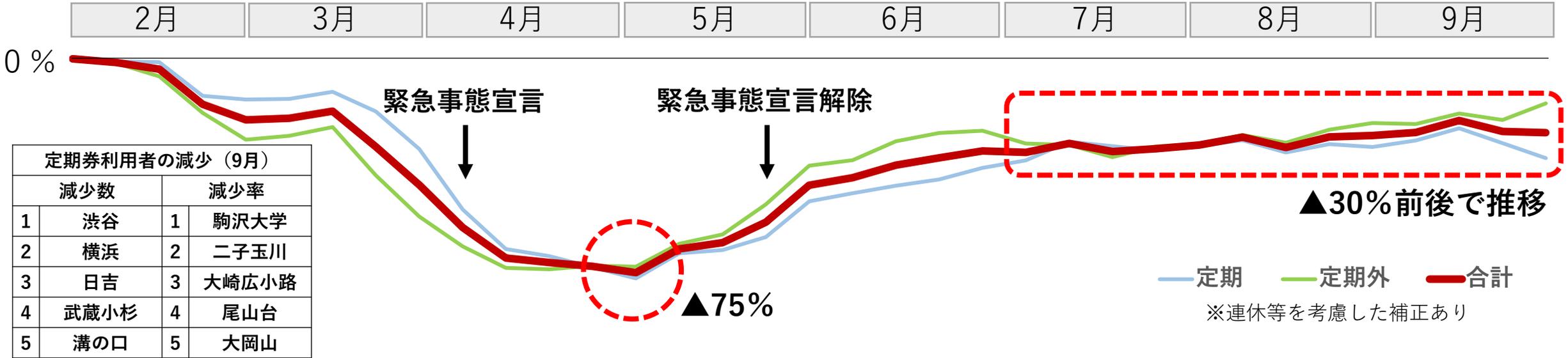
2020年10月26日

東急電鉄株式会社 城石 文明

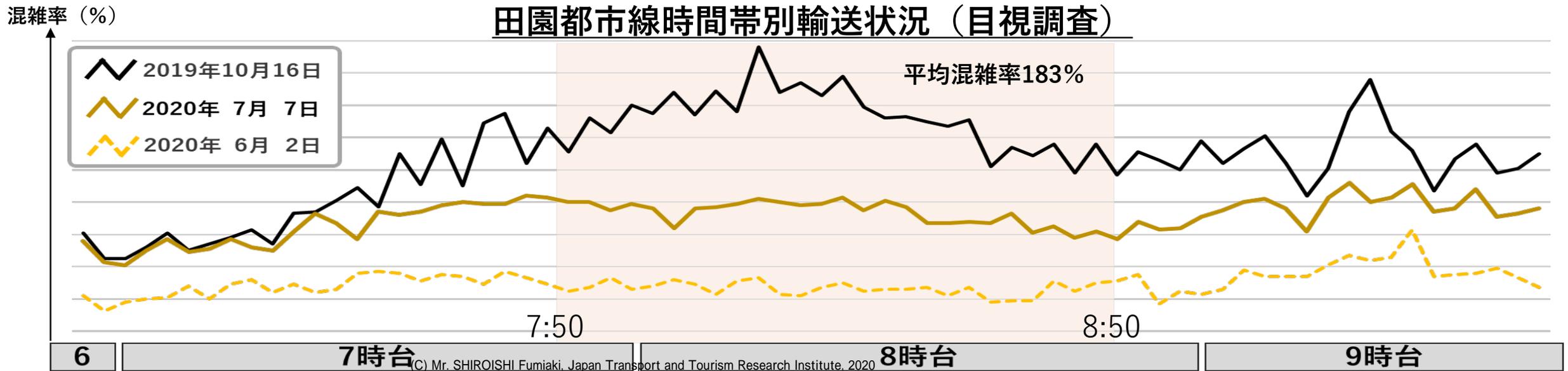
東急線の輸送状況



全駅乗降人員（終日）対前年度比較



田園都市線時間帯別輸送状況（目視調査）



働き方に関するアンケート調査



利用者アンケート

調査方法：インターネット調査

調査期間：2020年6月25日～7月5日

調査対象：東急線アプリ利用者

回答数：有効回答数 **6,760票**
(約37万人にプッシュ通知を配信)



企業アンケート

調査方法：インターネット調査

調査期間：2020年7月10日～7月31日

調査対象：東急グループ協力企業

回答数：有効回答数 **224票**
(約400社へ依頼)

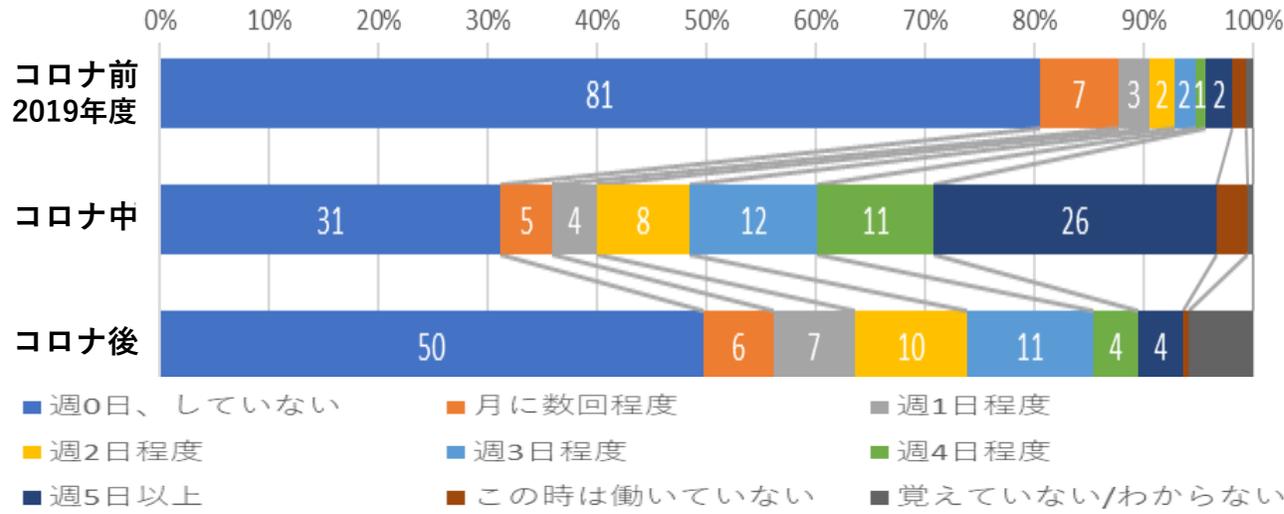
アフターコロナにおける働き方を想定

働き方に関するアンケート結果（概要）



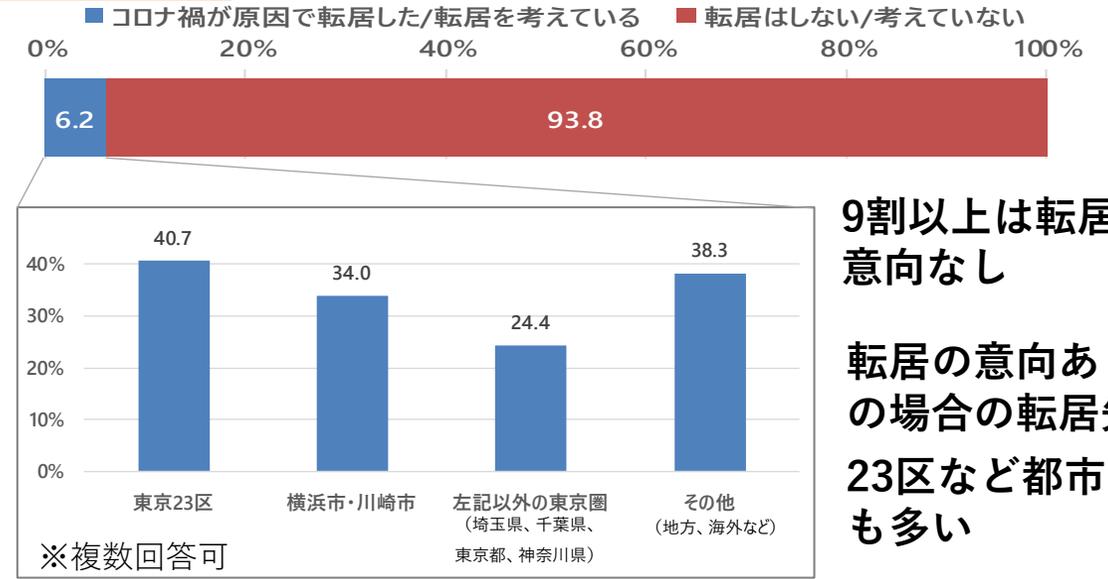
在宅勤務の頻度

コロナ中：緊急事態宣言下 コロナ後：2～3年後（治療薬あり）

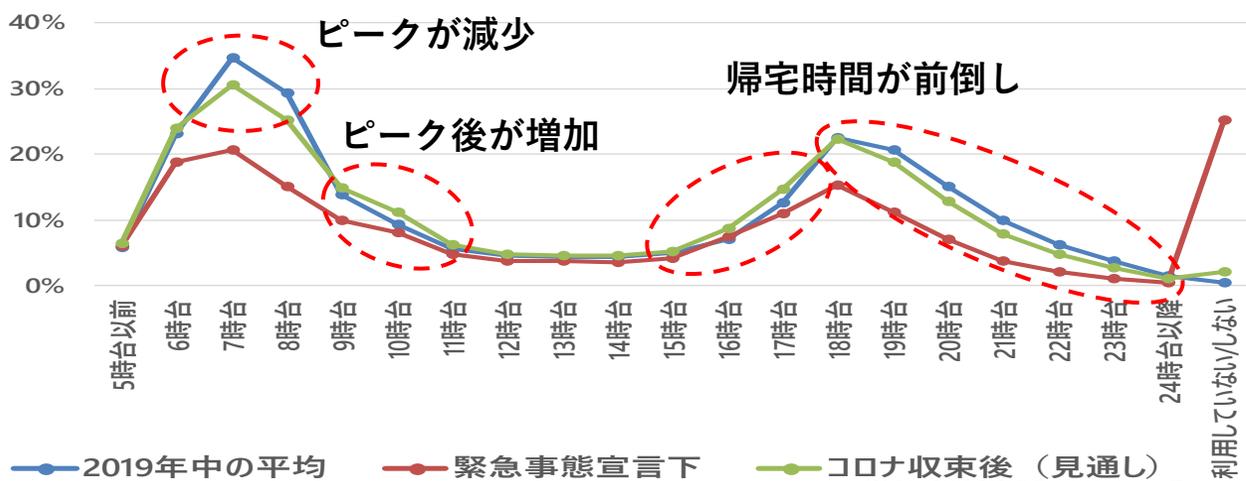


コロナ後も在宅勤務が定着する見通し

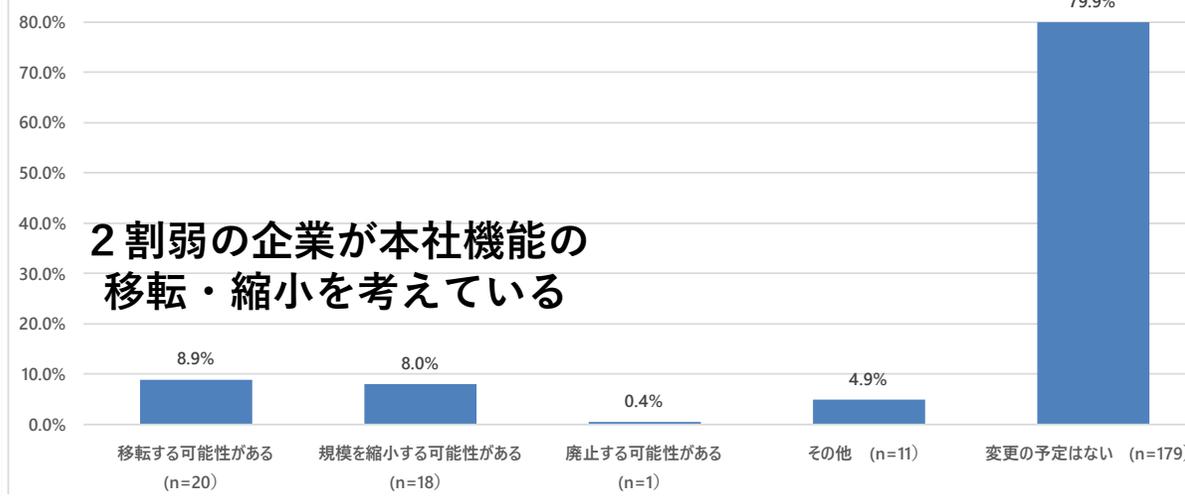
転居の意向



利用時間帯の変化（時差出勤）



本社機能の移転・縮小の意向



新型コロナウイルス感染防止対策



窓開け・抗菌加工等



窓開け



つり革などの消毒
抗ウイルス・抗菌加工



自動改札機やEV、券売機など駅設備の
抗ウイルス・抗菌加工

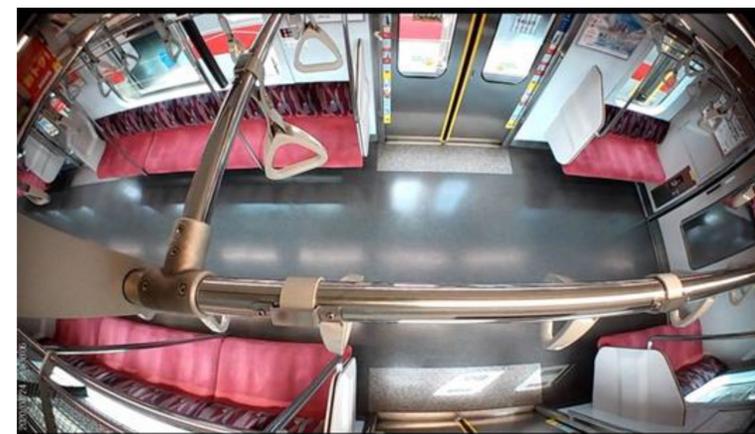


混雑の見える化



LED蛍光灯一体型防犯カメラ

全車両に導入完了（2020年7月）
※こどもの国線除く



カメラ映像イメージ

防犯カメラを活用した混雑状況のリアルタイム配信を検討

今後の取り組み（鉄道事業）



ポストコロナにおける鉄道事業の提供価値

『人へ、街へ、未来へ。』 東急電鉄スローガン

日本一安全・安心に
利用できる交通

高水準の
交通利便性の継続

社会の変化に
適応したサービス

サステナブル経営

社会課題の解決
人流創出による持続的社会への貢献

安全・安心
自由に移動
できる環境

低
コスト

低炭素
循環型
社会

変化への
即時適応

経営の高度化

(公共性と事業性の高レベルでの両立)

グループ連携強化

収益基盤の構築

人材力
技術力

迅速化

現場
重視

交通×開発×生活サービス

デジタルトランスフォーメーション

あらゆる領域にデジタル技術導入を推進

既存アセットと
デジタルとの融合

東急線アプリ
活用方法の深化

デジタル支援
による省力化

【参考】 今後の取り組み（まちづくり）

“City as a Service” 構想（現在から未来へ）

～ リアルとデジタルの融合による次世代に向けた街づくり ～

Well-being

一人ひとりのライフスタイルに合わせた
最適なサービス提供

自由な働き方・住まい方・移動

子育て・教育環境の充実

「食」とウェルネス、健康寿命

Social-harmony

自律的な地域経済・コミュニティ
を支援する仕組みづくり

より安全に心地よく歩ける都市空間

循環型社会

（地域通貨、地産地消、シェアリングエコノミー、資源再生 等）

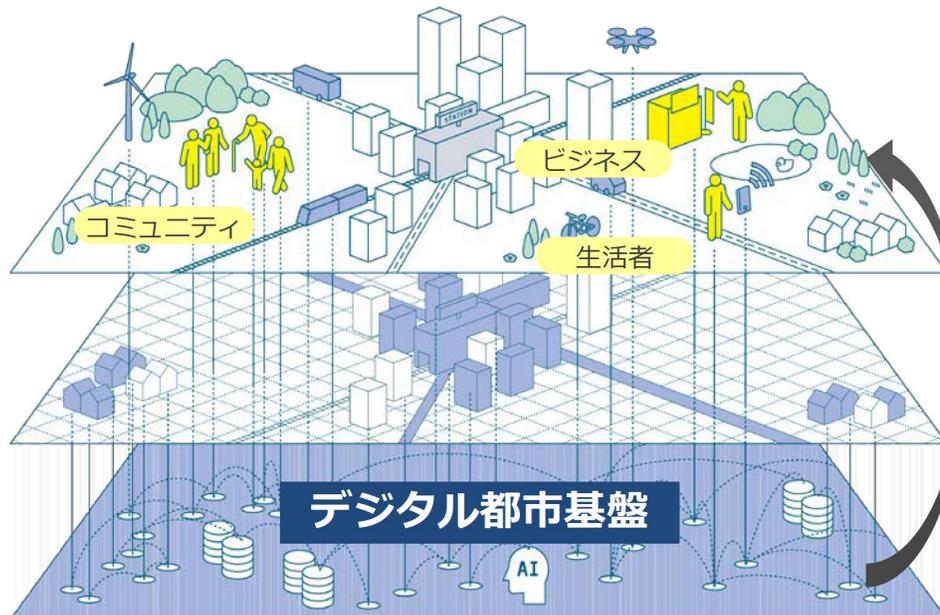
“デジタル都市基盤”の整備

統合ID、キャッシュレス

大容量通信インフラ

センシング、デジタル空間地図

など



“リアル都市基盤”への フィードバック

都市データのオープン化

都市オペレーションの最適化
（モビリティ・エネルギー・
ロジスティクス）

きめ細やかな都市計画

など